

数学ターミナル 線型代数の発想
ダイジェスト版 23

前回 部分線型空間の例

今回 部分線型空間でない例

- 反例として, 部分線型空間 W の要素の和またはスカラー倍が W に入らない具体例を挙げる.

部分線型空間の判定法

- どのような部分集合が部分線型空間といえるのかを判定する.

重要な例として

零ベクトルを含まない部分集合

を取り上げます。

例 1 非斉次方程式

★ 本書 p.214 問3.8 (改題)

$$2x_1 + 3x_2 = 1$$

の解集合

問題 1 x_1x_2 平面に直線

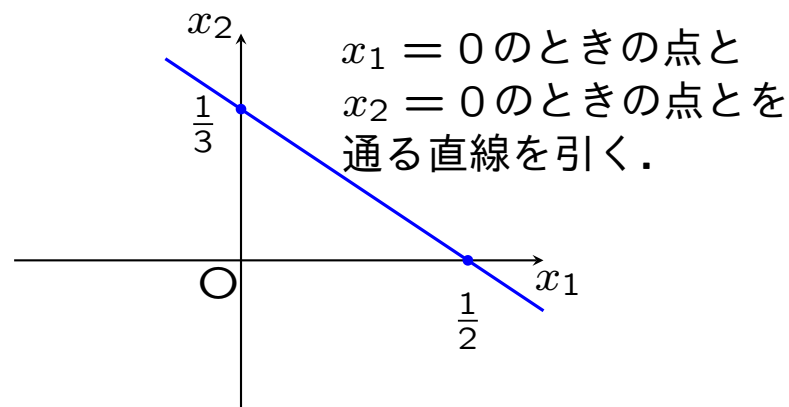
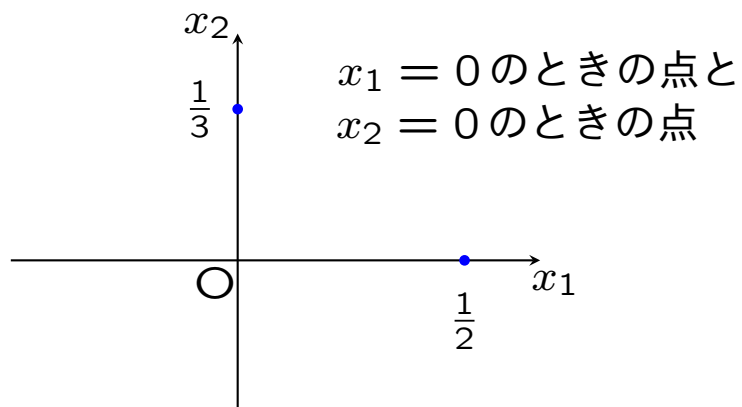
$$2x_1 + 3x_2 = 1$$

を描いてください。

★ 中学数学とちがって $x_2 = \dots$ に書き換えない。

解

★ 本書 p.54 例題 1.4, ダイジェスト版 16 p.21



原点を通らない直線上の点全体が非斉次方程式

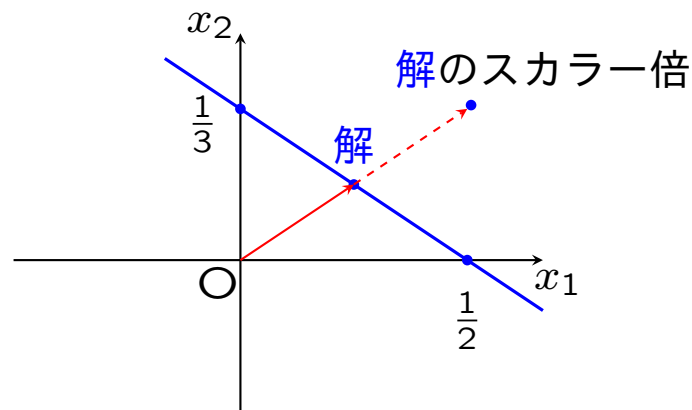
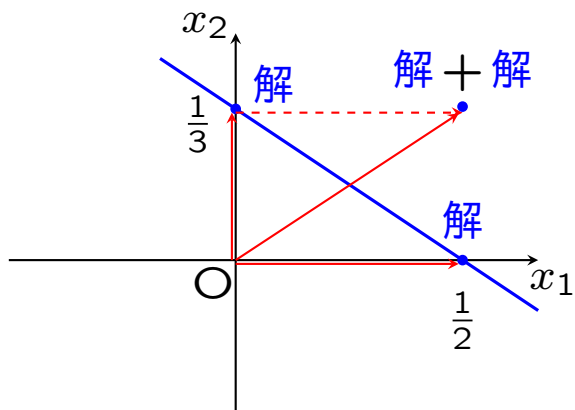
$$2x_1 + 3x_2 = 1$$

の解集合です。

問題 2

解どうしの和, 解のスカラー倍も解かどうかを確かめてください。

解



解どうしの和，解のスカラー倍は

直線上にないから解集合に入らない

ことがわかります．非斉次方程式

$$2x_1 + 3x_2 = 1$$

の解集合は \mathbb{R}^2 (x_1x_2 平面内の点全体) の部分線型空間ではありません．

例2 非斉次方程式 ★ 本書 p.214 問3.9 (改題)

$$1x_1 + 1x_2 + 1x_3 = 2$$

の解集合

問題3 平面

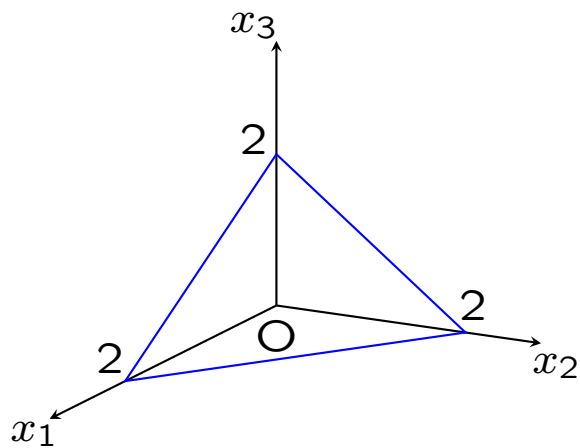
$$1x_1 + 1x_2 + 1x_3 = 2$$

を描いてください.

★ この平面が通る簡単な3点を考える.

解

暗算で、 x_1 軸上で $x_1 = 2$, x_2 軸上で $x_2 = 2$, x_3 軸上で $x_3 = 2$ であることがわかります。



ガラス板を思い描く。

このガラス板を含む平面内の点全体

$$1x_1 + 1x_2 + 1x_3 = 2.$$

$$1 \times 2 + 1 \times 0 + 1 \times 0 = 2.$$

$$1 \times 0 + 1 \times 2 + 1 \times 0 = 2.$$

$$1 \times 0 + 1 \times 0 + 1 \times 2 = 2.$$

原点を通らない平面内の点全体が非斉次方程式

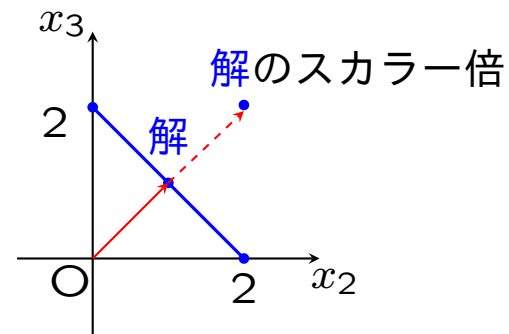
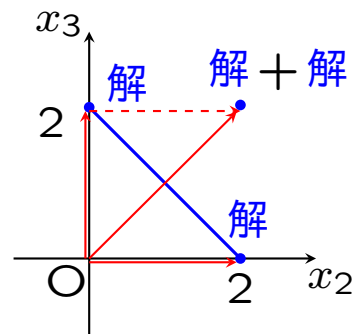
$$1x_1 + 1x_2 + 1x_3 = 2$$

の解集合です。

問題 4

解どうしの和, 解のスカラー倍も解かどうかを確かめてください。

解



解どうしの和，解のスカラー倍は

平面内にはないから解集合に入らない

ことがわかります．非斉次方程式

$$1x_1 + 1x_2 + 1x_3 = 2$$

の解集合は \mathbb{R}^3 (空間内の点全体) の部分線型空間ではありません．

例3 非斉次方程式

★ 本書 p.215 問3.10

$$\begin{cases} 1x_1 + 1x_2 + 1x_3 = 1 \\ 2x_1 + 3x_2 - 1x_3 = 1 \end{cases}$$

の解集合

問題5 掃き出し法で解集合 W を求めてください.

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 2 & 3 & -1 & 1 \end{pmatrix} \xrightarrow{\textcircled{2} - \textcircled{1} \times 2} \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & -3 & -1 \end{pmatrix} \\ \xrightarrow{\textcircled{1} - \textcircled{2}} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 4 & 2 \\ 0 & 1 & -3 & -1 \end{pmatrix}$$

$$\begin{cases} 1x_1 + 0x_2 + 4x_3 = 2 \\ 0x_1 + 1x_2 - 3x_3 = -1 \end{cases}$$

$$x_3 = t \quad (t \text{ は任意の実数})$$

とおくと

$$\begin{aligned} x_1 &= 2 - 4t, \\ x_2 &= -1 + 3t \end{aligned}$$

となります。

解集合は

$$W = \left\{ \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}; \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} -4 \\ 3 \\ 1 \end{pmatrix} t, \forall t \in \mathbb{R} \right\}.$$

です.

★ ;の代わりに|と書いてもいい.

問題6

W はどのような図形を表すでしょうか?

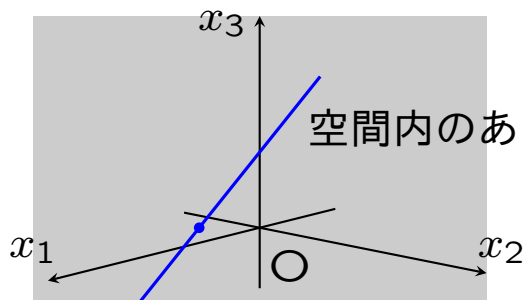
解 解集合 W は原点を通らない直線

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = \underbrace{\begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}}_{\text{特定の点}} + \underbrace{\begin{pmatrix} -4 \\ 3 \\ 1 \end{pmatrix}}_{\text{平行な方向}} t$$

です.

$$\begin{cases} 1x_1 + 1x_2 + 1x_3 = 1 \\ 2x_1 + 3x_2 - 1x_3 = 1 \end{cases}$$

は原点を通らない2平面を表し, 解は交線です.



空間 \mathbb{R}^3 は線型空間.

直線上の点の集合は \mathbb{R}^3 の部分集合.

問2, 問4と同様に, 解の和, 解のスカラー一倍は直線上にないから
解集合に入りません.

解集合 W が部分線型空間でないことを式で表す方法を考えます。

問題 7 解の和と解のスカラー倍とを見やすく表すための準備として、
非斉次方程式

$$\begin{cases} 1x_1 + 1x_2 + 1x_3 = 1 \\ 2x_1 + 3x_2 - 1x_3 = 1 \end{cases}$$

を係数マトリックスと解ベクトルとの乗法で表してください。

解

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 2 & 3 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}.$$

問題 8 非斉次方程式の解

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} -4 \\ 3 \\ 1 \end{pmatrix} t$$

のうち例として $t = 0$ と $t = 1$ とを選んで、これらの解の和が非斉次方程式の解でないことを示してください。

解 $t = 0$ のときの解は $\begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $t = 1$ のときの解は $\begin{pmatrix} -2 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ です.

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 2 & 3 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 2 & 3 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -2 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

+)

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 2 & 3 & -1 \end{pmatrix} \left\{ \underbrace{\begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}}_{\text{解}} + \underbrace{\begin{pmatrix} -2 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}}_{\text{解}} \right\} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} \\ \neq \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}.$$

問題 9 解のスカラー倍が**非**斉次方程式の解でないことを示してください.

解

例として $t = 0$ のときの解とスカラー 3 を選びます.

$$\begin{aligned} & \left(\begin{array}{ccc} 1 & 1 & 1 \\ 2 & 3 & -1 \end{array} \right) \left\{ \left(\begin{array}{c} 2 \\ -1 \\ 0 \end{array} \right) 3 \right\} && \blacktriangleleft \text{解のスカラー倍} \\ \stackrel{\text{結合法則}}{=} & \left\{ \left(\begin{array}{ccc} 1 & 1 & 1 \\ 2 & 3 & -1 \end{array} \right) \left(\begin{array}{c} 2 \\ -1 \\ 0 \end{array} \right) \right\} 3 \\ = & \left(\begin{array}{c} 1 \\ 1 \end{array} \right) 3 \\ \neq & \left(\begin{array}{c} 1 \\ 1 \end{array} \right). \end{aligned}$$

反例を挙げるのではなく, 記号で表すとどんな場合も説明できます.

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 2 & 3 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix},$$

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} -4 \\ 3 \\ 1 \end{pmatrix} t$$

を

$$Ax = b,$$

$$x = a + dt$$

と表します.

問題 10

これらの記号で解の和, 解のスカラー倍が解でないことを示してください.

解

$$A(a + dt_1) = b$$

$$+) \quad A(a + dt_2) = b$$

$$A[(a + a) + d(t_1 + t_2)] = b + b$$

$$A[(a + dt)s] \stackrel{\text{結合法則}}{=} [A(a + dt)]s \\ = bs.$$

解の和

$$x = (a + a) + d(t_1 + t_2)$$

は

$$Ax = b$$

をみたくしません。

解のスカラー倍

$$x = (a + dt)s$$

は

$$Ax = b$$

をみたくしません。

- 部分線型空間でない理由を図形, 式, 記号の3通りで示すことができました。

まとめ

★ 本書 p.212 – 214

部分線型空間の判定法

- ① 加法,
- ② スカラー倍

が自由にできる.

零ベクトルを含む.

スカラーを0とすると

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} 0 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}.$$

$\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ は加法の単位元.

自習

★ 本書 pp.216 – 218 問題演習

ねらい

線型空間と部分線型空間の特徴の表し方

★ 本書 pp.218 – 220

はじめに重要な二つの用語を挙げます。

基底	次元
座標軸の方向を表すベクトルの組	座標軸の本数

つぎに、

線型空間と部分線型空間

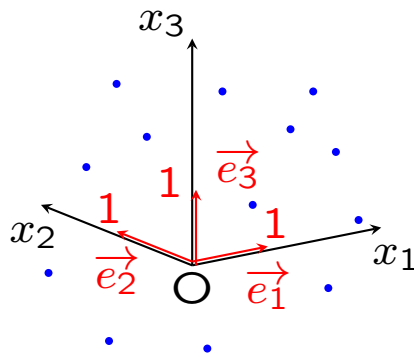
のそれぞれについて、例で

基底と次元の意味

を理解します。

線型空間 \mathbb{R}^3

座 (場所) 標 (しるし)



$$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} x_1 + \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} x_2 + \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} x_3.$$

座標
基底

次元 (dimension)

$$\dim \mathbb{R}^3 = 3.$$

空間内のすべての点は

$$\text{基底} \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \right\rangle$$

で表せます。

$$\text{記号} \langle e_1, e_2, e_3 \rangle \quad \langle \vec{e}_1, \vec{e}_2, \vec{e}_3 \rangle$$

部分線型空間

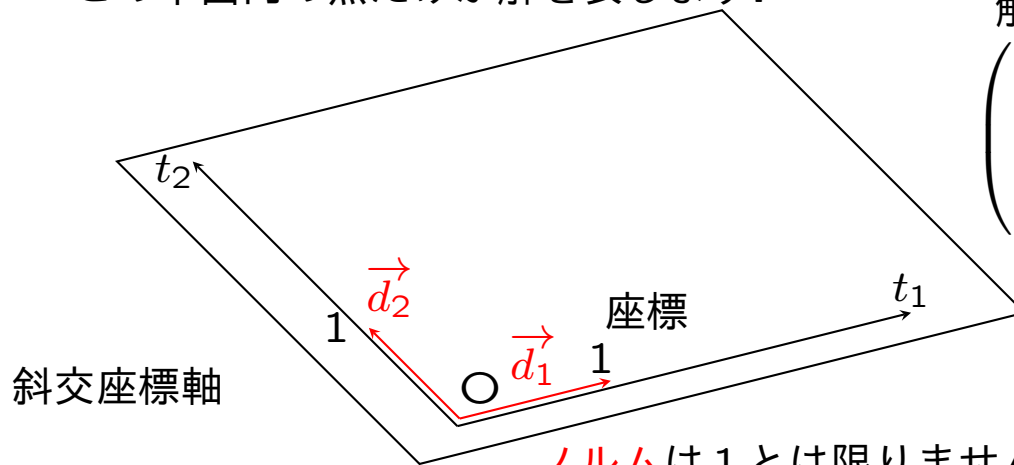
★ 本書 pp.218 – 219

例 3元1次方程式

$$1x_1 + 1x_2 + 1x_3 = 0$$

の解集合 W (線型空間 \mathbb{R}^3 の部分集合)

この平面内の点だけが解を表します。



ノルムは1とは限りません。この平面内のすべての点は

$$\text{基底} \left\langle \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \right\rangle$$

で表せます。

$$\text{記号} \langle d_1, d_2 \rangle \quad \langle \vec{d}_1, \vec{d}_2 \rangle$$

21

次元 (dimension)

$$\dim W = 2.$$

平面のベクトル表示

解ベクトル

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} t_1 + \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} t_2.$$

座標

基底

問題 11 $\|\vec{d}_1\|, \|\vec{d}_2\|$ を求めてください.

★幾何ベクトル $\|\vec{d}_1\|, \|\vec{d}_2\|$ は数ベクトル $\begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ で表せる.

解 三平方の定理で

$$\|\vec{d}_1\|^2 = (-1)^2 + 1^2 + 0^2,$$

$$\|\vec{d}_2\|^2 = (-1)^2 + 0^2 + 1^2$$

だから

$$\|\vec{d}_1\| = \sqrt{2},$$

$$\|\vec{d}_2\| = \sqrt{2}.$$

★ これらのノルムは1でないことを確かめました.

★ この例では, 座標軸方向で原点から距離 $\sqrt{2}$ の位置の座標が1です.

次回のための予習

次元の意味 本書 p.223

基底の意味 本書 pp.224 – 225